

## 報告書

氏 名	本田 理沙
研 修 名	ベトナムサマープログラム
主催団体名	日越大学
研 修 国	ベトナム
研 修 期 間	8月19日 ～ 8月29日 (11日間)
研 修 目 的	今回の研修でベトナムの社会について学び、またイオン・JETROを訪問して現地で活躍する日本人に海外で働くとはどういうことか、話を聞きたい。加えて、留学経験のある中国に続きベトナムを知り、アジアに対する理解をより深め、将来の職業の選択肢を広げる。
研 修 内 容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 8/19 08:55 羽田空港発 (NH857) - 12:25 ノイバイ空港着 オリエンテーション、歓迎会</li><li>・ 8/20 講義 ベトナム語入門 ワークショップ</li><li>・ 8/21 ハノイ市内・近郊バスツアー</li><li>・ 8/22 ベトナムJETRO、イオン訪問</li><li>・ 8/23 ワークショップ(ベトナムの仲秋)、民俗博物館</li><li>・ 8/24 外国語大学訪問、ベトナム人学生とのハノイ街歩き</li><li>・ 8/25 ハロン湾クルーズ</li><li>・ 8/26 プレゼンテーション準備</li><li>・ 8/27 日中友好関係45周年特別セミナー学生発表</li><li>・ 8/28 ニンビンツアー</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8/29 、 8/30 プログラム外活動</li> <li>・ 8/31 15:05 ノイバイ空港発 (NH858) - 22:15 羽田空港着</li> </ul>
<p>研修の成果</p>	<p>はじめに、ベトナム人に対して私が感じたことを述べる。</p> <p>私はベトナム人大学生と、ハノイ市内バスツアーや街歩きを通して交流を深めた。私は福島県出身で、海外から見た今の福島に対する印象に関心がある。ベトナム人学生に、福島の影響について聞いたところ、「今もなお福島の食べ物は不安だ」「色々な情報があつてどれが本当の情報か分からない」といった意見が多い中、「機会があれば福島に行ってみよう」という意見もあった。また、ふくしま・ベトナム友好協会の短期研修で来県した、ベトナムフオンドン大学のフウエンさんは、「福島は怖くない。その上食べ物はとても美味しい」と言っていた。このように、ベトナムでは、福島に対する不安だけでなく、積極的な意見もみられた。私は、福島情報を理解する上で、実際に福島に来て自分の目で見てもらうことが必要であると感じた。</p> <p>また、彼らに将来の夢や目標について聞いたところ、「日本の大学院に進学したい」「海外の企業に就職したい」といった、国外での活躍を将来に見据えた回答が多かった。職業選択において、日本か国外で迷っている私にとって、同じ学生である彼らの明確な目標は、新鮮味のある衝撃であり、その姿勢を見習いたいと強く思った。</p> <p>加えて、私はベトナム人の働く姿勢にも注目した。私が留学していた中国では、一般的に、客と店員の立場は対等だという考え方があり、大衆向けのお店では、「謝謝」と言われることや笑顔での対応も少ない。ベトナムで印象的だったのは、コンビニエンスストアの店員に、笑顔で「ありがとう」と言われたことと、スーパーマーケットの店員に商品の場所を聞いた際に、商品は見つからなかったものの、熱心に探してくれたことである。日本では、客に対して感謝することは、一般的なことと見なされていると思うが、中国人の接客を経験した私にとって、ベトナム人の客に対する笑顔や一生懸命さには、日本との共通点を感じ、驚くとともに心を打たれた。ベトナム人と中国人を比較することで、働く姿勢の違いや国民性を垣間見ることができた。</p> <p>次に、日系企業であるイオンへの訪問で学んだことを述べる。</p> <p>私は、イオンの客層は、ベトナム人の賃金水準から考えて、比較的経済力のある人々が対象であると思っていた。しかし、イオンベトナムの代表の方によると、イオンから、主要な移動手段であるバイクで15分圏内のベトナム人が対象であり、イオンベトナムは大衆向けのショッピングモールであるということが分かった。イオンベトナムで最も売れている商品は抹茶のアイスクリームである。また生の魚ということで不安要素が大きかった寿司も、開店当初は購入に2時間待ちだったという状況を聞き、以上のことから、ベトナム人は日本の食文化を受け入れていると感じた。</p> <p>そのほかに、「海外で働くにあたり大切なことは何か」について質問したところ、日本でのやり方に合わせるのではなく、日本人とベトナム人のお互いにとって最適な方法を模索することが大切だと伺った。その例として、店長をベトナム人に行っていることである。店長がベトナム人であることで、店長と社員の間のコミュニケーション</p>

	<p>が円滑になり、一つの企業としてまとめ、海外で活躍できる日系企業になっているということが分かった。このことから、働くこと、特に海外においては、互いの国民性を理解できる柔軟性が不可欠であると学んだ。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>今後も、ベトナム人大学生と交流を続けたいと考えている。彼らと定期的に情報交換することで、お互いに切磋琢磨していける関係を築いていきたい。</p> <p>私は海外で働く日本人の姿に影響を受け、やりたいと心から思った仕事であれば、海外の企業であっても目指したいと考えるようになった。そして視野を広げる第一歩として、10月14、15日の二日間に及ぶ上海キャリアフォーラムに参加した。そこで面接を行うことで、自分に必要なことは、特に今後の目標を持つことだと感じ、次の目標として、12月の企業面接に向けて力を入れていきたいと思う。</p> <p>今回のベトナムサマープログラムは、大学の先生に紹介されたものである。私は、普段から大学の国際交流センターで開催されるイベントや英語の学習会に積極的に参加しているため、先生から情報を得ることができ、この機会をものにすることができた。これからも継続して国際交流イベントに参加して、このような経験をさらに積みみたいと考える。</p>



イオンベトナム訪問



ベトナムでの学びについてのプレゼンテーション



日越大学生との交流